PXS3100-JA-1A

JA

PX-S3100

CASIO

取扱説明書（基本編）（保証書別添）

本書は、お読みになったあとも、保証書とともに、大切に保管してください。
別紙の「安全上のご注意」をお読みの上で、正しくお使いください。

本書には、基本的な操作方法がまとめられています。より詳しい情報については、弊社ウェブサイトの「取扱説明書」を参照してください。また「ワイヤレスMIDI & AUDIOアダプター×オーディオ&パソコン接続ガイド」、「MIDIインプリメンテーション」などの各詳細情報も、あわせてご覧ください。
https://support.casio.jp/emi/manual/PX-S3100/

- 乾電池だけで本機を使用しているときに、大きな音量で演奏や曲再生をすると、音が歪んで聞こえる場合があります。これは、ACアダプターと乾電池の違いによるもので、故障ではありません。音の歪みが気になる場合は、ACアダプターでご使用頂くか、音量を下げてください。

本機でできること

✔700種類の音色で鍵盤演奏を楽しむ
☞ 本書「音色を選んで弾く」(2/4ページ)

✔自動伴奏
☞ 本書「自動伴奏をバックに演奏する」(2/4ページ)

✔演奏を録音する
- 録音内容をMIDIデータとして保存
  ☞ 本書「MIDIレコーダーで演奏を録音する」(3/4ページ)
- 録音内容をオーディオファイルとして保存
  ☞ 本書「オーディオレコーダーで演奏を録音する」(3/4ページ)

✔レジストレーション機能
☞ 本書「セットアップを登録し再現する（レジストレーション）」(3/4ページ)

✔Bluetooth® 無線技術で接続したスマートデバイスの再生音を本機から鳴らす
☞ 本書「付属のワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターを使う」(4/4ページ)

✔鍵盤の感度を調節する
☞ 本書「鍵盤を押す強弱で音量を変える（タッチレスポンス）」(2/4ページ)

✔調（キー）を移動して演奏する
☞ 本書「音の高さを半音単位で変更する（トランスポーズ）」(2/4ページ)

✔ホールシミュレーター効果とサラウンド効果
☞ 本書「サウンドモード（ホールシミュレーター／リバーブとサラウンド）を使う」(2/4ページ)

✔鍵盤を左右に分けて2人で弾く
☞ 本書「鍵盤を左右に分けて2人で弾く（デュエット）」(3/4ページ)

✔自動でアルペジオ演奏
☞ 本書「アルペジオのフレーズを自動的に鳴らす（アルペジエーター）」(2/4ページ)

✔鍵盤演奏音のピッチを滑らかに変える
☞ 本書「ピッチベンドホイールで音の高さを変える」(2/4ページ)

✔2つのノブで音色やエフェクトをコントロール
☞ 本書「ノブを使う」(2/4ページ)

✔MIDIデータを再生
☞ 本書「曲を聴く（MIDIプレーヤー）」(3/4ページ)

✔スマートフォンで本機をコントロール
☞ 本書「スマートデバイスとリンクする（APP機能）」(4/4ページ)

✔ほかにも、こんなことができます
- アコースティックピアノの音の特徴を調整（アコースティックシミュレーター）
- DSP、コーラス、プリリアンス
- 鍵盤の音の高さを変更（チューニング、オクターブシフト）
- 平均律をはじめ17種類から音律を選択（スケールチューニング）
- 本機の音を外部機器に出力
- パソコンと接続して演奏情報（MIDIデータ）を送受信
- パーサタイルトーン（DTM向け音色）

✔困ったときは
☞ 弊社ウェブサイトの「取扱説明書」を参照

付属品、別売品について

付属品や別売品は、必ず本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

付属品一覧

- **譜面立て**
- **ACアダプター（AD-A12150LW）**
- **電源コード**
- **ペダル（SP-3）**
- **ワイヤレスMIDI & AUDIOアダプター**
- **リーフ類**
  - **取扱説明書（本書）**
  - **カシオ電子楽器保証書**
  - **安全上のご注意**
  - **アフターサービス窓口について**
  - **その他**

- 欠品、破損、紛失等の場合は、ご購入された販売店にお問い合わせください。（ACアダプターは別売品で購入可能）
- 付属品のデザインと内容は、予告なく変更されることがあります。

別売品のご案内

商品名	品番
ヘッドホン	CP-16
ペダル	SP-3 SP-20 SP-34
イス	CB-5 CB-7 CB-30
スタンド	CS-68P
ソフトケース	SC-800P
ACアダプター	AD-A12150LW

- カシオ電子楽器取扱店で購入可能。
- 別売品については、店頭の製品カタログでより詳しい情報がご覧になれます。
  https://support.casio.jp/emi/manual/PX-S3100/

演奏の準備

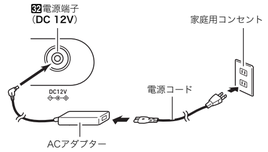
電源の準備

■ ACアダプターを使う

本機指定のACアダプター（JEITA規格・極性統一形プラグ付き）を使用してください。他のACアダプターを使用すると発煙や故障の原因になることがあります。

ACアダプターの型式：AD-A12150LW
（JEITA Standard plug）

ACアダプターの接続には、付属の電源コードをご使用ください。



重要！
- **本機付属のACアダプター（JEITA規格・極性統一形プラグ付き）は、本機にのみご使用ください。他の機器への接続は絶対に行わないでください。故障の原因となります。**
- **ACアダプターを差したり抜いたりする前に、必ず本機の電源を切ってください。**
- **長時間ご使用になりますとACアダプターが若干熱をもちますが、故障ではありません。**

■ 乾電池を使う

重要！
- **乾電池を入れる前に、必ず本機の電源を切ってください。**
- **乾電池は市販のアルカリ乾電池をご使用ください。**
- **乾電池を入れるために本機を裏返すときは、次のことにご注意ください。**
  - **本機の下に手を挟まないようご注意ください。けがの原因となります。**
  - **不用意に倒すなどして、本機に衝撃を与えないでください。音量つまみや鍵盤が破損する原因となります。**

1. 本機の裏側にある電池ブタをはずします。
2. 市販の単3形乾電池、6本を電池ケースに入れます。
   本体の印に合わせて⊕⊖の向きを間違えないように入れてください。
3. 電池ケースの穴にツメを差し込み、電池ケースのフタを閉じます。

■ 乾電池交換時期のお知らせ表示

乾電池が消耗してくると、液晶画面の右上にある電池交換お知らせアイコンが点滅表示されます。新しい乾電池と交換してください。

重要！
- **電池が消耗したまま本機の使用を続けると、突然電源が切れることがあります。この場合、本機に記録しているデータが破損・消失する恐れがあります。**

電源の入れ方、切り方

1. **1** ⏻（電源）ボタンを押して、本機の電源を入れます。
   電源が入ると、液晶画面に“Welcome”と表示されます。この表示が消えて音色名の表示に切り替わったら、本機が使用できる状態になります。
   - **1** ⏻（電源）ボタンを軽く押しても電源が入らない場合がありますが、故障ではありません。その場合は**1** ⏻（電源）ボタンをしっかりと押し直してください。
2. **2** 音量つまみを使って、音量を調節します。
3. 本機の電源を切るには、液晶表示部に“Bye”と表示されるまで、**1** ⏻（電源）ボタンを押し続けます。

メモ
- **1** ⏻（電源）ボタンで電源を切ったあとも、本機は微電流が流れているスタンバイ状態になっています。本機を長時間使用しないとき、あるいは落雷のおそれがあるときは、必ずACアダプターをコンセントから外してください。

■ 電源切り忘れお知らせ機能について

本機をACアダプターに接続して使用しており、何も操作せずに約6分間が経過すると、タッチボタンが順番に点灯と消灯を繰り返して、本機の電源が入ったままになっていることをお知らせします。
ボタンにタッチしたり鍵盤を押したりするなど、何らかの操作をすると、通常の状態に復帰します。電源を切り忘れていた場合は、液晶表示部に“Bye”と表示されるまで**1** ⏻（電源）ボタンを押し続けて、本機の電源を切ってください。

■ オートパワーオフ機能

本機を何も操作せずに一定時間が経過すると、無駄な電力消費を防ぐため自動的に電源が切れます。電源が切れるまでの時間は、約4時間（ACアダプター使用時）／6分（電池使用時）です。
- コンサートなどで演奏の合間に電源が切れないよう、オートパワーオフ機能を無効にすることができます。FUNCTIONパラメーターの“SYSTEM” → “Auto Power Off”を“On”（オートパワーオフ機能が有効）と“Off”（オートパワーオフ機能が無効）の間で切り替えます。
  FUNCTIONパラメーターについては、「機能設定を変更する（FUNCTIONモード）」(4/4ページ)をご参照ください。

ペダルを使う

■ DAMPER PEDAL端子

付属のペダル（SP-3）を**27**DAMPER PEDAL端子に接続します。このペダルの機能は、FUNCTIONパラメーターの“PEDAL/WHEEL” → “DAMPER PEDAL” → “Pedal Target”を使って切り替えることができます。

設定値（表示）	説明
1. Sustain （初期設定）	ペダルを踏んでいる間は、鍵盤を離しても音の余韻が残ります。オルガンなど、鍵盤を押している間音が持続する音色では、ペダルを踏んでいる間、音が鳴り続けます。
2. Sostenuto	ペダルを踏んだ時点で押さえている鍵盤の音だけ、鍵盤を離してもペダルを離すまで音の余韻が残ります。
3. Soft	ペダルを踏んでいる間に弾いた音が若干小さくなることに加え、音が柔らかく聴こえる効果が得られます。
4. Arpeggio Hold	アルペジエーター機能がオンのとき、ペダルを踏んでいる間は、アルペジオホールドが有効になります。
5. Play/Stop	**3** ▶/■と同じ働きをします。
6. Fill-in	自動伴奏が鳴っているときにペダルを踏むと、フィルインが再生されます。

FUNCTIONパラメーターについては、「機能設定を変更する（FUNCTIONモード）」(4/4ページ)をご参照ください。

■ PEDAL UNIT端子

☞ 弊社ウェブサイトの「取扱説明書」を参照

20PEDAL UNIT端子には、別売のペダルユニット（SP-34）を接続してご利用ください。よりグランドピアノに近い、表現力豊かなペダル演奏が楽しめます。

■ EXPRESSION/ASSIGNABLE端子

☞ 弊社ウェブサイトの「取扱説明書」を参照

31EXPRESSION/ASSIGNABLE端子には、市販のエクスプレッションペダルまたは弊社製サステインペダル（付属のSP-3または別売品）を接続します。

重要！
- **接続可能なエクスプレッションペダルについては、必ず弊社ウェブサイトの「取扱説明書」でご確認ください。**

ヘッドホンを使う

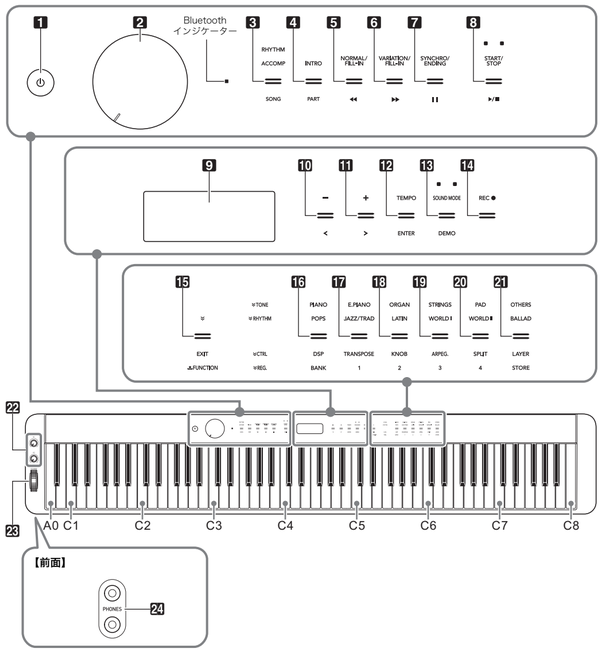
ヘッドホンを使用すると内蔵スピーカーから音が出なくなり、夜間でも周囲に気兼ねなく演奏が楽しめます。
- 本機の音量を絞ってから、ヘッドホンを**24**PHONES端子に接続してください。

メモ
- ヘッドホンは本製品に付属されておりません。
- 別売または市販のヘッドホンがご使用になれます。

重要！
- **大きな音量で長時間ヘッドホンを使用しないでください。聴覚障害になる恐れがあります。**
- **ヘッドホンのコードを本機から抜くときは、変換プラグだけを本機に残さないようにご注意ください。プラグが残っていると演奏しても音が出ません。**

全体ガイド

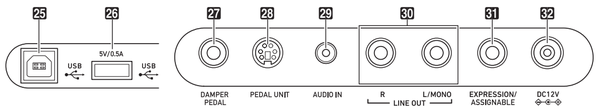
■ フロントパネル



タッチボタンについて
1 ⏻（電源）ボタンを除くボタンは、電源を入れると点灯するタッチボタンです。上記のイラストは、すべてのボタンと文字が点灯した状態を示しています。実際には、その時々で利用可能なボタンと、ボタンの機能を表す文字だけが、点灯（または点滅）します。

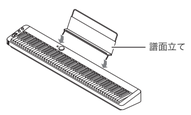
1 ⏻（電源）ボタン
2 音量つまみ
3 モード選択ボタン（**RHYTHM**、**ACCOMP**、**SONG**）
4 **INTRO**、**PART**ボタン
5 **NORMAL/FILL-IN**、◀◀ボタン
6 **VARIATION/FILL-IN**、▶▶ボタン
7 **SYNCHRO/ENDING**、❚❚ ボタン
8 **START/STOP**、▶/■ ボタン
9 液晶画面
10 **−**、**<**ボタン
11 **+**、**>**ボタン
12 **TEMPO**、**ENTER**ボタン
13 **SOUND MODE**、**DEMO**ボタン
14 **REC●**ボタン
15 ∨、**EXIT**、**FUNCTION**ボタン
16〜**21** TONEカテゴリー、RHYHTMカテゴリーボタン
16 **DSP** 、**BANK**ボタン
17 **TRANSPOSE**、エリア**1**ボタン
18 **KNOB**、エリア**2**ボタン
19 **ARPEG.**、エリア**3**ボタン
20 **SPLIT**、エリア**4**ボタン
21 **LAYER**、**STORE**ボタン
22 ノブ（**K1**）、ノブ（**K2**）
23 **PITCH BEND**ホイール
24 **PHONES**端子

■ 背面端子部



25 **USB** Type B端子
26 **USB** Type A端子
27 **DAMPER PEDAL**端子
28 **PEDAL UNIT**端子
29 **AUDIO IN**端子
30 **LINE OUT R**、**L/MONO**端子
31 **EXPRESSION/ASSIGNABLE**端子
32 電源端子（**DC 12V**）

■ 譜面立ての準備

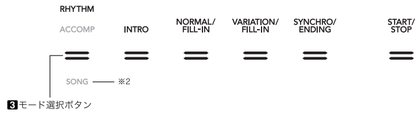


■ 本機を工場出荷時の状態に戻すには

「本機を工場出荷時の状態に戻す」(4/4ページ)をご参照ください。

タッチボタンの操作

本機の電源を入れると、タッチボタンが点灯します。
- ボタンやその上下の文字の点灯状態は、本機の状態に応じて変化します。例えば電源を入れた直後は、本機はRHYTHMモード※1になり、液晶画面の左側では下記のボタンと文字が点灯します。



- **3** モード選択ボタンに2回タッチしてSONGモード※1に切り替えると、点灯状態が下記に切り替わります。

このように、その時々で利用可能なボタンと、ボタンの機能を表す文字だけが、点灯（または点滅）します。
※1 これらのモードについては、「モード選択ボタンについて」をご参照ください。
※2 本書中のイラストでは、ボタン上下の点灯していない文字をグレーで、点灯している文字を黒で表しています。

重要！
- **タッチボタンを操作するときは、素手の指でしっかりタッチしてください。手袋をした指には反応しません。**
- **タッチボタンが反応しない場合は、下記の操作を実行してください。下記操作により、タッチボタンの感度が高めに設定されます。**

1. 本機の電源をいったん切る。
2. C8鍵盤（右端の鍵盤）を押したまま離さずに、**1** ⏻（電源）ボタンを押す。
   - C8鍵盤は、液晶画面に“Welcome”と表示されるまで、離さないでください。**1** ⏻（電源）ボタンは離して構いません。

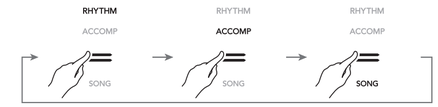
■ タッチボタンの自動消灯（パネル消灯設定）について

省電力のため、一定時間ボタン操作をしなかったときに、**3** モード選択を除くボタンを自動的に消灯させる設定が可能です。
- ☞ 弊社ウェブサイトの「取扱説明書」を参照

■ モード選択ボタンについて

本機には、下記3つの動作モードがあります。
RHYTHMモード： 本機の最も基本的な動作モードで、通常の鍵盤演奏をはじめ、ほとんどの操作はこのモードで実行します。
ACCOMPモード： コードを伴った自動伴奏を鳴らすための動作モードです。「自動伴奏をバックに演奏する」(2/4ページ)をご参照ください。
SONGモード： 曲を再生するための動作モードです。「曲を聴く（MIDIプレーヤー）」(3/4ページ)をご参照ください。

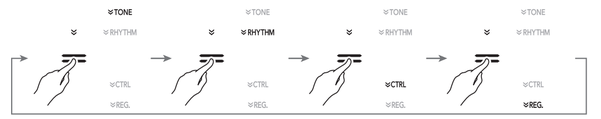
3 モード選択ボタンにタッチするたびに、これら3つの動作モードの間で切り替わります。



ボタンの上または下に、現在の動作モード名が点灯します。その他の動作モード名は、表示されません。

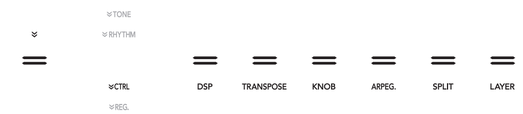
■ ∨ボタンについて

本機フロントパネルの右端6つのボタン（**16**〜**21**）は、ボタンの機能を4通りから選んで使います。これら6つのボタンの機能を切り替えるには、**15** ∨ボタンにタッチします。
15 ∨ボタンにタッチするたびに、ボタン右側の機能名の点灯状態が下図のように切り替わります。



この機能名を点灯させると：	**16**〜**21**ボタンに下記の機能が割り当てられる：
TONE	音色のカテゴリー選択
RHYTHM	リズムのカテゴリー選択
CTRL	DSP選択、トランスポーズ、ノブセット切り替え、アルペジエーター／オートハーモナイズ、スプリット、レイヤー
REG.	レジストレーション機能

例： 機能として “CTRL” を選んだときの**16**〜**21**ボタン



裏面に続く➔

音色を選んで弾く

本機には、数多くの音色が用意されています。1音色で演奏する以外にも、2つの音色を同時に鳴らしたり（レイヤー）、鍵盤全体を左右に分けて、高音部と低音部で別の音を鳴らしたり（スプリット）することができます。

■ 音色の1つを選ぶには

1. 15∨を使って、ボタンの右に“∨TONE”を点灯させます。
   液晶画面に、現在選択されている音色のカテゴリー名と音色名が表示されます。

2. 16～24 TONEカテゴリーボタンを使って、音色のカテゴリーを選びます。
3. 10ー、11＋を使って、音色を選びます。

■ 2音色を重ねて鳴らすには（レイヤー）

1. 「音色の1つを選ぶには」の操作で、音色を1つ選びます（Upper1音色）。
2. 15∨を使って、ボタンの右に“∨CTRL”を点灯させます。
3. 21LAYERにタッチして液晶画面に“LY”を表示し、レイヤーをオンに切り替えます。
4. 15∨を使ってボタンの右に“∨TONE”を点灯させ、「音色の1つを選ぶには」の操作でUpper2音色を選びます。

メモ
- レイヤーをオフにするには、15∨を使ってボタンの右に“∨CTRL”を点灯させ、21LAYERにタッチして液晶画面の“LY”を消します。

■ 鍵盤を左右2音色に分けるには（スプリット）

1. 「音色の1つを選ぶには」の操作で、音色を1つ選びます（Upper1音色）。
2. 15∨を使って、ボタンの右に“∨CTRL”を点灯させます。
3. 20SPLITにタッチして液晶画面に“SP”を表示し、スプリットをオンに切り替えます。
4. 15∨を使ってボタンの右に“∨TONE”を点灯させ、「音色の1つを選ぶには」の操作でLower音色を選びます。

メモ
- スプリットとレイヤーを同時に使うには、上記の操作に続いて「2音色を重ねて鳴らすには（レイヤー）」の手順2～4を実行します。
- スプリットをオフにするには、15∨を使ってボタンの右に“∨CTRL”を点灯させ、20SPLITにタッチして液晶画面の“SP”を消します。

デモ演奏を聴く

1. 15∨を押さえ続け、13DEMOボタンの“DEMO”の文字が点滅したら離します。
2. 13DEMOにタッチします。
   13DEMO（ボタンおよび“DEMO”の文字）が消灯し、デモ演奏の待機状態になります。
   液晶画面には、“1: Demo Song”と表示されます。
3. デモ演奏を開始するには、3▶/■または12ENTERにタッチします。
   - この後3▶/■または12ENTERにタッチするたびに、デモ演奏が停止、または再開されます。
4. デモ演奏の待機状態から抜けるには、15EXITにタッチします。

鍵盤を押す強弱で音量を変える（タッチレスポンス）

タッチレスポンス機能とは、鍵盤を押す強さ（速さ）で音量を変化させる機能です。タッチレスポンス機能を使うとアコースティックピアノのように鍵盤を押す強さ（速さ）で音量や音質が変化し、演奏の表現が豊かになります。

■ タッチレスポンスの感度を変更するには

1. 15∨を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。

2. 10<、11>を使って“KEYBOARD”を表示し、12ENTERにタッチします。
3. 10<、11>を使って“Touch Response”を表示し、12ENTERにタッチします。

4. 10ー、11＋または22ノブ（K1）を使って、設定値を変更します。

設定値（表示）	設定内容
オフ （Off）	タッチレスポンスを解除します。鍵盤を押す速度が変化しても音量は一定のままです。
軽い （Light2） ↑ （Light1）	大きな音を出しやすい設定になり、「普通」よりもタッチが軽く感じられます。
普通 （Normal）	標準的な設定です。
（Heavy1） ↓ 重い （Heavy2）	大きな音を出しにくい設定になり、「普通」よりもタッチが重く感じられます。

5. 希望する設定値に変更したら、液晶画面から“[FUNCTION]”の表示が消えるまで、15EXITを押さえ続けます。

音の高さを半音単位で変更する（トランスポーズ）

音の高さを半音単位で全体的に上げたり下げたりします。難しい調（キー）を弾き慣れた調で弾きたい場合や、歌う人の声の高さに合わせて伴奏の調を上げ下げしたいときなどに便利です。

■ トランスポーズするには

1. 15∨を使って、ボタンの右に“∨CTRL”を点灯させます。
2. 17TRANSPOSEにタッチします。
   液晶画面に、現在のトランスポーズ設定値が表示されます。

3. 10ー、11＋を使って、設定値を変更します。
   - −12～＋12半音の間で変更できます。

サウンドモード（ホールシミュレーター／リバーブとサラウンド）を使う

13SOUND MODEボタンを使って、下記効果のオン／オフを切り替えることができます。

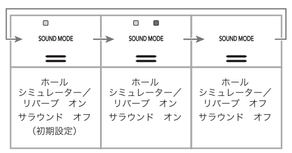
● ホールシミュレーター／リバーブ
ホールシミュレーターとリバーブは、いずれも音の響きを変えるタイプのエフェクトです。
ホールシミュレーター：透明感のある端正な響きや、伸びやかで華やかな響きなど、世界的に有名なコンサートホールや建築物内の、それぞれに異なる音響特性をシミュレートします。
リバーブ：部屋の中、あるいはホール内といった、空間の残響を再現するタイプのエフェクトです。

● サラウンド
擬似的な立体音響（バーチャルサラウンド効果）が得られます。この効果は、外部入力音声を本機のスピーカーで鳴らすときに適しています。

メモ
- サラウンドの効果は、本機の29PHONES端子および30LINE OUT R, L/MONO端子からの出力音にはかかりません。

■ ホールシミュレーター／リバーブとサラウンドのオン／オフを切り替えるには

1. 13SOUND MODEにタッチします。
   - タッチするたびに、LEDの点灯状態が次のように切り替わります。



■ ホールシミュレーター／リバーブのタイプを選ぶには

1. 13SOUND MODEを押さえ続け、液晶画面に“[SOUND MODE]”と表示されたら離します。
2. “Hall/Rev. Type”が表示されているのを確認し、12ENTERにタッチします。
3. 10ー、11＋を使って、ホールシミュレーター／リバーブのタイプを選びます。

● ホールシミュレーター

タイプ（表示）	設定内容
1. N.Y.Club	マンハッタンにあるミュージックラブ
2. Opera Hall	ユニークな形状をしたシドニーのコンサートホール
3. Berlin Hall	ベルリンのアリーナ形式クラシックコンサートホール
4. BritishStadium	ロンドン郊外の大型野外スタジアム

● リバーブ

タイプ（表示）	設定内容
5. Room 1	室内の残響感を与えるリバーブ
6. Room 2	
7. Room 3	
8. Large Room	
9. Hall 1	小規模ホールの残響感を与えるリバーブ
10. Hall 2	
11. Hall 3	
12. Stadium	スタジアムの残響感を与えるリバーブ

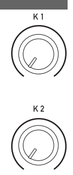
4. 設定を終了するには、15EXITに数回タッチして、“[SOUND MODE]”の表示を消します。

■ サラウンドのタイプを選ぶには

1. 13SOUND MODEを押さえ続け、液晶画面に“[SOUND MODE]”と表示されたら離します。
2. 10<、11>を使って“Surround Type”を表示し、12ENTERにタッチします。
3. 10ー、11＋を使って、サラウンドのタイプ（タイプ1またはタイプ2）を選びます。
4. 設定を終了するには、15EXITに数回タッチして、“[SOUND MODE]”の表示を消します。

ノブを使う

2つのノブを使って、音色やエフェクトのさまざまなパラメーターを、リアルタイムで変更することが可能です。



■ ノブに割り当てる機能（ノブセット）を切り替えるには

1. 15∨を使って、ボタンの右に“∨CTRL”を点灯させます。
2. 18KNOBにタッチします。
   液晶画面に、現在選択されているノブセット名が表示されます。

3. 10ー、11＋を使って、ノブセットを選びます。
   - 選択したノブセットに応じて22ノブ（K1）、ノブ（K2）に割り当てられるパラメーターについては、弊社ウェブサイトの「取扱説明書」をご参照ください。

ピッチベンドホイールで音の高さを変える

現在鳴っている音の音高（ピッチ）を、滑らかに上下させることができます。サックスやエレキギターのチョーキング奏法のような効果を出すことができます。

1. 右手で鍵盤を押しながら、左手で28PITCH BENDホイールを上下に動かします。
   ホイールを動かした量に応じて、音の高さが変わります。
   - 本機の電源を入れるときには、ホイールに触らないようにしてください。

アルペジオのフレーズを自動的に鳴らす（アルペジエーター）

アルペジエーターを使うと、鍵盤を押さえるだけで、アルペジオ（分散和音）や、さまざまなフレーズが自動的に再生されます。押さえている和音からアルペジオが再生されるタイプや、さまざまなフレーズを自動的に再生するものなど、数多くのタイプから選べます。

■ アルペジエーター機能をオンにするには

重要！
- **下記の手順2で19ARPEG.にタッチしたときに“AR”ではなく“AH”と表示された場合は、19ARPEG.ボタンの割り当てを変更する必要があります。FUNCTIONパラメーターの“ARPEG./A.HARMO.” → “Type Select”を“Arpeggiator”に切り替えてください。FUNCTIONパラメーターについては、「機能設定を変更する（FUNCTIONモード）」（4/4ページ）をご参照ください。**

1. 15∨を使って、ボタンの右に“∨CTRL”を点灯させます。
2. アルペジエーター機能をオンにするには、19ARPEG.にタッチして液晶画面に“AR”を表示します。

   - 鍵盤で和音、または単音を押さえると、現在選択されているタイプのアルペジオが再生されます。
3. アルペジエーター機能をオフにするには、19ARPEG.にタッチして液晶画面の“AR”を消します。

メモ
- アルペジエーターのタイプを選ぶ操作については、弊社ウェブサイトの「取扱説明書」をご参照ください。タイプの詳細は、別冊「内蔵音楽データ一覧」をご参照ください。

自動伴奏をバックに演奏する

リズムを選び、コード（和音）を押すだけで、バンド演奏のような伴奏が自動的に再生されます。

自動伴奏を鳴らす

本機の自動伴奏は、ドラムやパーカッションによる「リズムパート」と、コード（和音）を伴う各種楽器による「コードパート」で構成されています。自動伴奏を鳴らす際は、リズムパートだけ、あるいは両方のパートを同時に鳴らすことができます。

■ リズムを選ぶには

1. 15∨を使って、ボタンの右に“∨RHYTHM”を点灯させます。
   液晶画面に、現在選択されているリズムのカテゴリー名とリズム名が表示されます。

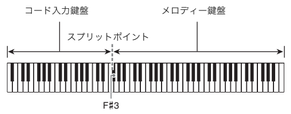
2. 16～21 RHYTHMカテゴリーボタンを使って、RHYTHMのカテゴリーを選びます。
3. 10ー、11＋を使って、リズムを選びます。

■ リズムパートだけを鳴らすには

1. 3モード選択ボタンを使って、“RHYTHM”を点灯させます（RHYTHMモード）。
2. 「リズムを選ぶには」の操作で、鳴らしたいリズムを選びます。
3. 8START/STOPにタッチします。
   リズムがスタートします。
   - リズムの拍子に合わせて、8START/STOPボタンの上にある黄色と赤のLEDが点滅します（1拍目：黄色、残りの拍：赤）。
4. リズムに合わせて弾きましょう。
5. もう一度8START/STOPを押すとリズムがストップします。

■ コードを付けて鳴らすには

1. 3モード選択ボタンを使って、“ACCOMP”を点灯させます（ACCOMPモード）。
2. リズムをスタートさせます。
   - リズムを選んでスタートさせる操作については、「リズムパートだけを鳴らすには」の手順2、3をご参照ください。
3. コード入力鍵盤でコードを押さえます。
   コードが入力されると、リズムパートに加えてコードパートが鳴り始めます。



例）コード入力鍵盤の「レ・ファ♯・ラ・ド」を押さえる。
↓
「レ・ファ♯・ラ・ド」の和音（コード：D7）で伴奏が鳴ります。

4. 左手でいろいろなコードを押さえて、右手でメロディーを弾きましょう。
   - 簡単にコードを押さえられる「カシオコード」など、コード入力方法にはいくつかの種類があります。「コードの入力方法を選ぶには」をご参照ください。
5. 自動伴奏を止めるには、8START/STOPにタッチします。

■ テンポを調節するには

1. 12TEMPOにタッチします。
   液晶画面に現在のテンポ値が表示されます。

2. 10ー、11＋を使って、テンポ値を調節します。
   - テンポ値は20～255の間で設定できます。
3. 12TEMPOまたは15EXITにタッチして、設定画面から抜けます。

■ コードの入力方法を選ぶには

1. 15∨を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。
   FUNCTIONモードに入ります。
2. 10<、11>を使って“ACCOMPANIMENT”を表示し、12ENTERにタッチします。
3. 10<、11>を使って“Chord Mode”を表示し、12ENTERにタッチします。
4. 10ー、11＋または22ノブ（K1）を使って、設定値を変更します。

設定値（表示）	コードの入力方法
1. CASIO Chord	カシオコード
2. Fingered 1	フィンガード1
3. Fingered 2	フィンガード2
4. Fg On Bass	フィンガードオンベース
5. Fg Assist	フィンガードアシスト
6. Full Range	フルレンジコード

   - コードの入力方法に応じたコード入力鍵盤の押さえ方については、弊社ウェブサイトの「取扱説明書」をご参照ください。
5. FUNCTIONモードから抜けるには、液晶画面から“[FUNCTION]”の表示が消えるまで、15EXITを押さえ続けます。

メトロノーム伴奏パターンについて

下記の伴奏パターンは、メトロノーム音だけを鳴らします（コード入力鍵盤を押さえても、ベースやハーモニーを加えた伴奏は鳴りません）。

リズム番号	メトロノーム音の鳴り方
BALLAD：39	すべての拍でクリック音だけが鳴ります。
BALLAD：40	すべての拍でベル音が鳴ります。
BALLAD：41～48	2拍子～9拍子です。1拍目にベル音が鳴り、残りの拍はクリック音が鳴ります。

自動伴奏で曲を組み立てる（伴奏パターン）

1つの曲は、イントロ（前奏）で始まり、主題に移り、間奏など変化が入ったり主題に戻ったりしながら進行し、エンディングに至ります。自動伴奏機能には、こうした曲の進行に合う、多数の伴奏パターンが用意されています。

■ ノーマルとバリエーション

曲の主題や間奏に使うための伴奏パターンです。1小節から数小節のパターンが繰り返されます。

伴奏パターン	鳴らすための操作
ノーマル	5NORMAL/FILL-INにタッチする。
バリエーション	6VARIATION/FILL-INにタッチする。

■ フィルイン

曲の途中に1小節、または2小節の短いフィルイン（変化フレーズ）を挿入する伴奏パターンです。ボタンにタッチしたタイミングでフィルインがスタートし、1小節後、または2小節後の1拍目で、ノーマルパターンまたはバリエーションパターンに戻ります。

伴奏パターン	鳴らすための操作
ノーマルフィルイン	ノーマルパターンが鳴っているときに、5NORMAL/FILL-INにタッチする。
バリエーションフィルイン	バリエーションパターンが鳴っているときに、6VARIATION/FILL-INにタッチする。

■ イントロ

曲の始めに使うための伴奏パターンです。数小節のイントロ伴奏パターンが鳴った後で、ノーマルパターンに移行します。

伴奏パターン	鳴らすための操作
イントロ	4INTROにタッチする。

■ エンディング

曲の終わりに使うための伴奏パターンです。数小節のエンディングを鳴らして、自動伴奏が終了します。

伴奏パターン	鳴らすための操作
エンディング	自動伴奏が鳴っているときに、7SYNCHRO/ENDINGにタッチする。

コード入力鍵盤で自動伴奏を開始する（シンクロスタート）

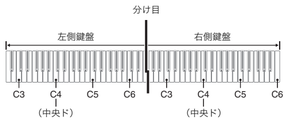
コード入力鍵盤でコードを押さえると同時に、自動伴奏をスタートさせることができます。

■ シンクロスタートで自動伴奏を開始するには

1. 自動伴奏の停止中に、7SYNCHRO/ENDINGにタッチします。
   シンクロスタートの待機状態になり、8START/STOPボタンの上にある黄色と赤のLEDが点滅します。
   - ここで7SYNCHRO/ENDINGにタッチすると、シンクロスタートの待機状態から抜けます。
2. コード入力鍵盤でコードを押さえます。
   自動伴奏がスタートします。

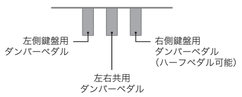
鍵盤を左右に分けて2人で弾く（デュエット）

鍵盤の中央から右側と左側で同じ音域にすることができます。左側で先生がお手本演奏をして、右側で生徒さんが同じメロディーを弾く、といった活用ができます。



■ ペダルについて

- 別売のSP-34をお使いの場合、両端のペダルが、それぞれ左側鍵盤用と右側鍵盤用のダンパーペダルになります。3本のペダルのうち、右側鍵盤用ダンパーペダルのみハーフペダルに対応します。



- 付属のSP-3をお使いの場合、左右共用ダンパーペダルにするには、**27 DAMPER PEDAL**端子に接続します。ハーフペダルには対応しません。

■ デュエット機能を使うには

1. **18**▼を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。
   FUNCTIONモードに入ります。
2. **10**＜、**11**＞を使って“KEYBOARD”を表示し、**12 ENTER**にタッチします。
3. **10**＜、**11**＞を使って“DUET”を表示し、**12 ENTER**にタッチします。
4. “Duet Mode”が表示されているのを確認し、**12 ENTER**にタッチします。
5. **10**－、**11**＋を使って、デュエット機能の設定を切り替えます。
   - デュエット機能を使うには、“On”または“Pan”を選びます。デュエット機能の使用をやめて鍵盤を通常の状態に戻すには、“Off”を選びます。

設定値（表示）	説明
Off	デュエット機能をオフにします。
On	デュエット機能をオンにします。
Pan	デュエット機能をオンにし、左側鍵盤の音は左スピーカーからのみ、右側鍵盤の音は右スピーカーからのみ出るようにします。

6. FUNCTIONモードから抜けるには、液晶画面から“[FUNCTION]”の表示が消えるまで、**15 EXIT**を押さえ続けます。

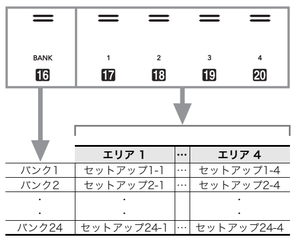
セットアップを登録し再現する（レジストレーション）

レジストレーション機能を使うと、本機のセットアップ（音色やリズムなどの設定一式）を登録することができます。登録したセットアップは、特定の曲を演奏する際など、必要に応じて呼び出すことができます。

メモ
- レジストレーション機能はRHYTHMモードまたはACCOMPモードで利用できます。
- レジストレーション機能はSONGモード、デモ演奏中、ミュージックプリセットの使用中、および各種の設定操作中は利用できません。

■ セットアップの保存場所について

セットアップの登録には、専用の保存場所が使われます。この保存場所は、24個の「バンク」に分かれています。バンク1つあたりの保存場所が4つあるので、合計で96個（24バンク×4エリア）のセットアップが登録できます。
- バンクの指定には、**16 BANK**ボタンを使います。
- エリアの指定には、**17**エリア**1**ボタン～**20**エリア**4**ボタンを使います。



	エリア 1	…	エリア 4
バンク1	セットアップ1-1	…	セットアップ1-4
バンク2	セットアップ2-1	…	セットアップ2-4
．	．		．
．	．		．
バンク24	セットアップ24-1	…	セットアップ24-4

■ 登録可能な設定項目

- リズム番号、モード選択（ACCOMPモードまたはRHYTHMモード）、シンクロ待機状態、自動伴奏設定（コード入力方法、伴奏音量）
- テンポ
- 音色番号（Upper1、Upper2、Lower）、レイヤーOn/Off、スプリットOn/Off、DSP（タイプ、パラメーター）、鍵盤音量設定、パート設定（音量、オクターブシフト、ファインチューン）、デュエット設定
- スプリットポイント
- オートハーモナイズ/アルペジエーター（On/Off、タイプ、各種設定状態）
- トランスポーズ
- 音律設定（タイプ、基音、ストレッチチューニング、自動伴奏スケール）
- タッチレスポンス設定
- コーラスタイプ、ブリリアンス設定
- ホールシミュレーター/リバーブ（On/Off、タイプ、デプス）、サラウンド（On/Off、タイプ）
- ダンパーペダルの機能、エクスプレッション/アサイナブルペダルの機能、ピッチベンドレンジ、パート設定（ペダルユニット、ダンパーペダル、エクスプレッション/アサイナブルペダル、ピッチベンドホイール）
- ノブ設定

■ 外部機器への保存について

レジストレーション機能で登録したセットアップは、バンク単位でUSBメモリーに保存できます。「USBメモリーを使用する」（4/4ページ）をご参照ください。

セットアップの登録と呼び出し

■ セットアップを登録するには

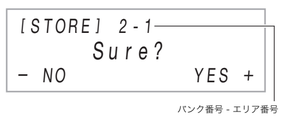
重要！
- **下記の操作でデータを登録済みのバンクとエリアを指定すると、登録されていたデータは消去されます。バンクとエリアについては、「セットアップの保存場所について」をご参照ください。**

1. **3**モード選択ボタンを使って、“RHYTHM”または“ACCOMP”を点灯させます。
2. レジストレーションに登録したい状態に、本機をセットアップします。
3. **15**▼を使って、ボタンの右に“▼REG.”を点灯させます。
4. 登録先のバンクを選びます。

バンク番号

- **16 BANK**にタッチするたびに、バンク番号が切り替わります。
- **10**－、**11**＋を使ってバンク番号を選ぶこともできます。

5. 登録先のエリアを選びます。
   21 STOREを押さえたまま、**17**エリア**1**～**20**エリア**4**のいずれかにタッチします。
   液晶画面に“Sure?”と表示されます。



バンク番号 - エリア番号

- セットアップの登録をやめるには、ここで**10**－にタッチします。

6. 登録するには、**11**＋にタッチします。
   登録が完了すると、液晶画面に“Complete”と表示されます。

■ 登録したセットアップを呼び出すには

1. **3**モード選択ボタンを使って、“RHYTHM”または“ACCOMP”を点灯させます。
2. **15**▼を使って、ボタンの右に“▼REG.”を点灯させます。
3. **16** BANK、**10**－または**11**＋を使って、呼び出したいセットアップのバンクを選びます。
4. **17**エリア**1**～**20**エリア**4**のいずれかにタッチして、呼び出したいセットアップのエリアを選びます。
   セットアップが呼び出されます。

- 呼び出されたセットアップに従って、音色やリズムなどの設定が自動的に切り替わります。

MIDIレコーダーで演奏を録音する

本機による鍵盤演奏を、MIDIデータとして記録します。記録内容は、SONGモードの曲番号11～15番に保存されます。
- 録音可能な曲数は5曲です。
- 1曲ごとに、3トラックを使ったマルチトラック録音が可能です。
- 1曲に記録できる最大音符数は、3トラックの合計で約30,000音符です。

重要！
- **本機の故障、修理などによる録音内容の消去により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。**

■ 録音トラックと記録される内容について

本機のMIDIレコーダーは、録音トラック3つを備えたマルチトラックレコーダーです。
録音トラックにはシステムトラックとソロトラックがあり、それぞれ記録できる内容が異なります。
- **システムトラック：** 自動伴奏を使った演奏が記録できます。また、レイヤーやスプリットなど、演奏時の鍵盤の設定も記録可能です。
- **ソロトラック1、ソロトラック2：** 1音色（Upper1）を使った鍵盤演奏が録音できます。

これらのトラックに、下図のイメージで重ね録音ができます。

システム	録音	→	再生	→	再生
ソロ1	（空）		録音		再生
ソロ2	（空）		（空）		録音

■ 外部機器への保存について

本機に録音したデータは、USBメモリーに保存できます。
「USBメモリーを使用する」（4/4ページ）をご参照ください。

演奏を録音・再生する

重要！
- **録音中に残り音符数が100以下になると17 REC●が点滅し始め、残りがなくなると18 REC●が消灯して録音が停止します。**
- **録音中に電源が切れると、録音してあった内容はすべて消去されます。**

■ MIDIレコーダー使用前の準備

本機はMIDIレコーダーとオーディオレコーダー、2つの録音機能を備えています。MIDIレコーダーは、本機がMIDIモードのときに利用可能です。本機がオーディオモードになっている場合は、下記操作でMIDIモードに切り替えてください。
（本機の初期設定はMIDIモードなので、初期設定を変更していない場合、下記操作は不要です。）

1. **15**▼を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。
   FUNCTIONモードに入ります。
2. **10**＜、**11**＞を使って“SONG”を表示し、**12 ENTER**にタッチします。
3. “Song Type”が表示されているのを確認し、**12 ENTER**にタッチします。
4. **10**－、**11**＋を使って、設定を“MIDI”に切り替えます。
5. FUNCTIONモードから抜けるには、液晶画面から“[FUNCTION]”の表示が消えるまで、**15 EXIT**を押さえ続けます。

■ 録音するには（システムトラックへの録音）

1. **録音時に使う音色やリズム、エフェクト、テンポなどを設定します。**
2. **14 REC●にタッチします。**
   録音待機状態になり、**14 REC●**が赤色で点滅します。
   - 録音をやめる場合は、もう一度**14 REC●**にタッチします。
   - すでにMIDIレコーダーの曲数上限まで録音済みの場合は、“Data Full”と表示され、録音待機状態から抜けます。
3. **録音を始めるには、鍵盤演奏を開始します。**
   14 REC●が赤色点滅から点灯に切り替わり、録音中になったことを表します。
   - 鍵盤演奏の代わりに**8 START/STOP**にタッチするとリズムがスタートし、同時に録音も開始されます。この場合、鍵盤を弾き始めるまでは、リズムだけが記録されます。
4. **録音を終了するには、14 REC●にタッチします。**
   - 自動的にSONGモードに切り替わり、今録音した曲が選択された状態になります。
5. **今録音した曲をすぐに再生するには、8 ▶/■にタッチします。**

■ 録音済みのシステムトラックに重ねてソロトラックに録音するには

メモ
- 「録音するには（システムトラックへの録音）」の操作に続けて下記を実施する場合、下記の手順1、2の操作は不要です。

1. **3**モード選択ボタンを使って、“SONG”を点灯させます（SONGモード）。
2. **10**－、**11**＋を使って、システムトラックへの録音が済んでいるMIDIレコーダー曲の曲番号を選びます。
   - 曲番号11～15が、MIDIレコーダーによる録音曲です。必要に応じて**8 ▶/■**にタッチして曲を再生し、内容を確認してください。
3. **録音時に使う音色などを設定します。**
4. **14 REC●にタッチします。**
   録音待機状態になり、**14 REC●**が赤色で点滅します。
5. **14 REC●を押さえ続け、液晶画面に“[MIDI REC SETTING]”と表示されたら離します。**
6. “Rec Track”が表示されているのを確認し、**12 ENTER**にタッチします。

7. **10**－、**11**＋を使って、トラックを選びます。
   - ソロトラック1を選ぶには“Solo 1”、ソロトラック2を選ぶには“Solo 2”を表示します。
8. **録音を始めるには、鍵盤演奏を開始します。**
   システムトラックの再生と同時に、手順7で選択したソロトラックへの録音が開始されます。
   14 REC●が赤色点滅から点灯に切り替わり、録音中になったことを表します。
   - 鍵盤演奏の代わりに**8 START/STOP**にタッチするとシステムトラックが再生され、同時にソロトラックへの録音も開始されます。この場合、鍵盤を弾き始めるまでは、ソロトラックは休符（無音）となります。
9. **録音を終了するには、14 REC●にタッチします。**
10. **今録音した内容をすぐに再生するには、8 ▶/■にタッチします。**
    - システムトラックとソロトラックへの録音内容が、同時に再生されます。
    - さらにもう1つのソロトラックに重ねて録音したい場合は、手順3～10をもう一度実行します。手順7では、未録音のソロトラックを選んでください。

MIDIレコーダー曲を消去する

1. **3**モード選択ボタンを使って、“SONG”を点灯させます（SONGモード）。
2. **10**－、**11**＋を使って、消去したいMIDIレコーダー曲の曲番号を選びます。
   - 曲番号11～15が、MIDIレコーダーによる録音曲です。必要に応じて**8 ▶/■**にタッチして曲を再生し、内容を確認してください。
3. **14 REC●を押さえ続け、液晶画面に“Song Clear”と表示されたら離します。**
4. **12 ENTER**にタッチします。
   液晶画面に“Sure?”と表示されます。
5. **消去するには14**＋、**消去をやめるには10**－にタッチします。

オーディオレコーダーで演奏を録音する

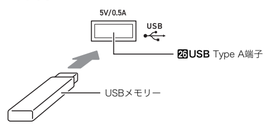
本機による鍵盤演奏を、オーディオデータとして記録します。記録内容は、WAVファイル（リニアPCM、16bit、44.1kHz、ステレオ）の形式で、本機のUSB Type A端子に接続したUSBメモリーに保存されます。

重要！
- **FAT32またはexFATでフォーマットされたUSBメモリーをご使用ください。**
- **オーディオレコーダーによる録音中あるいは再生中は、USBメモリーを取り外さないでください。USBメモリーのデータが壊れたり、USB Type A端子が故障したりする場合があります。**

USBメモリーの取り扱いに関する注意事項は、「USBメモリーを使用する」（4/4ページ）をご参照ください。

■ オーディオレコーダー使用前の準備

1. 次の操作で、本機をオーディオモードに切り替えます。
   （1）**15**▼を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。
   FUNCTIONモードに入ります。
   （2）**10**＜、**11**＞を使って“SONG”を表示し、**12 ENTER**にタッチします。
   （3）“Song Type”が表示されているのを確認し、**12 ENTER**にタッチします。
   （4）**10**－、**11**＋を使って、設定を“Audio”に切り替えます。
   （5）FUNCTIONモードから抜けるには、液晶画面から“[FUNCTION]”の表示が消えるまで、**15 EXIT**を押さえ続けます。
2. USBメモリーを、本機の**28 USB** Type A端子へ差し込みます。



- 確実に奥まで差し込んでください。また、無理な挿入はしないでください。
- 本機がUSBメモリーを認識すると、液晶画面に“MOUNTING”と表示されます。表示が消えるまでは、何も操作せずにしばらくお待ちください。

■ 鍵盤演奏をUSBメモリーに録音するには

1. **「オーディオレコーダー使用前の準備」を実行します。**
2. **14 REC●にタッチします。**
   録音待機状態になり、**14 REC●**が赤色で点滅します。
   SONGモードだった場合は、RHYTHMモードに切り替わります。
   - 録音をやめる場合は、もう一度**14 REC●**にタッチします。
3. **録音を始めるには、鍵盤演奏を開始します。**
   14 REC●が赤色点滅から点灯に切り替わり、録音中になったことを表します。
   - 鍵盤演奏の代わりに**8 START/STOP**にタッチするとリズムがスタートし、同時に録音も開始されます。
4. **録音を終了するには、14 REC●にタッチします。**
   - 録音内容が、USBメモリーにWAVファイルとして保存されます。
   - SONGモードに切り替わり、保存されたファイルが自動的に選択されます。
5. **今録音した内容をすぐに再生するには、8 ▶/■にタッチします。**

■ オーディオレコーダーで録音したファイルを選んで再生するには

1. **「オーディオレコーダー使用前の準備」を実行します。**
2. **3**モード選択ボタンを使って、“SONG”を点灯させます（SONGモード）。
3. **10**－、**11**＋を使って、再生したいファイルを選びます。
4. **再生を開始するには、8 ▶/■にタッチします。**
   - 最後まで再生されると、再生は停止します。途中で再生を停止するには、**8 ▶/■**にタッチします。

曲を聴く（MIDIプレーヤー）

本機はMIDIプレーヤー機能（MIDIデータの再生機能）を備えており、次のMIDIファイルが再生可能です。

曲の種類	説明
ユーザー曲	お好きな曲を、最大10曲までユーザー曲（曲番号1～10）として追加できます。ユーザー曲を追加するには、USBメモリーまたはスマートデバイスに本機で利用可能な曲データ（1曲あたり最大320KB）を保存して、その曲データを本機に転送します。詳しくは、「USBメモリーを使用する」（4/4ページ）および「スマートデバイスとリンクする（APP機能）」（4/4ページ）をご参照ください。
MIDIレコーダー曲	本機のMIDIレコーダーで録音した曲です。「MIDIレコーダーで演奏を録音する」（このページ）をご参照ください。
USBメモリー曲	USBメモリーに保存されている標準MIDIファイル（SMFフォーマット0/1）またはカシオMIDIファイル（CMF形式）です。保存のしかたについては、「一般の曲データをパソコンでUSBメモリーにコピーする」（4/4ページ）をご参照ください。

■ 曲を選んで再生するには

1. **USBメモリー曲を再生したい場合は、曲を保存済みのUSBメモリーを、本機の28 USB Type A端子へ差し込みます。**
2. **3**モード選択ボタンを使って、“SONG”を点灯させます（SONGモード）。
3. **10**－、**11**＋を使って、曲番号を選びます。

曲番号	曲のタイプ
1～10	ユーザー曲
11～15	MIDIレコーダー曲
16～999	USBメモリー曲

- 選んだ曲によっては、液晶画面に“LOADING”と表示されることがあります。これは、データの読み込み中を表します。

4. **選択した曲を再生するには、8 ▶/■にタッチします。**
   - 拍子に合わせて、**8 ▶/■**ボタンの上にある黄色と赤のLEDが点滅します（1拍目：黄色、残りの拍：赤）。
   - 曲の再生中は、下記の操作が可能です。

これをするには：	この操作をする：
再生を止める	**8 ▶/■**にタッチする
一時停止する	**7 ❚❚**にタッチする
再生のテンポ（速さ）を変える	「テンポを調節するには」（2/4ページ）を参照
1小節先に進める	**6 ▶▶**にタッチする
早送りする	**6 ▶▶**を押さえ続ける
1小節前に戻す	**5 ◀◀**にタッチする
早戻しする	**5 ◀◀**を押さえ続ける

■ 片手パートの音を消して曲を再生するには（消したパートを自分で弾いて練習するには）

メモ
- 下記の操作は、ユーザー曲とUSBメモリー曲で可能です。

1. **「曲を選んで再生するには」の手順1、2を実行します。**
2. **必要に応じて、「テンポを調節するには」（2/4ページ）の操作で曲のテンポを設定します。**
3. **4 PART**を使って、音を消したいパートを選びます。
   - **4 PART**にタッチするたびに再生パートの設定が切り替わり、設定に従って液晶画面の中央下部に“L”と“R”の文字が下記のように表示されます。

表示	意味
LR	左右両方のパートを再生します。
L	左手パートだけ再生し、右手パートを消します。
R	右手パートだけ再生し、左手パートを消します。
	左右両方のパートを消します。

4. **曲を再生するには、8 ▶/■にタッチします。**
   - 音を消したパートを、再生に合わせて自分で弾きます。

メモ
- USBメモリーに保存されている標準MIDIファイル（SMF形式）を再生する場合、3chが左手パート、4chが右手パートとなります。

裏面に続く➔

機能設定を変更する（FUNCTIONモード）

FUNCTIONモードには、機能設定を変更するためのメニュー項目がまとめられています。メニュー項目には、ディレクトリとパラメーターの2種類があります。

ディレクトリ：複数のパラメーターを含むグループです。
パラメーター：実際に設定が可能な項目です。例えば “Touch Response” （タッチレスポンス）というパラメーターを選んでから、その設定値を変更します。

下表はFUNCTIONモードに含まれるメニュー項目の一部です。表中で「(DIR)」が付いている項目はディレクトリ、それ以外はすべてパラメーターです。

パラメーター名またはディレクトリ名	表示	設定値
サウンド(DIR)	SOUND	–
アコースティックシミュレーター設定(DIR)	ACOUSTIC SIMU.	–
ストリングレゾナンス	String Reso.	Tone, Off, 1～4
ダンパーレゾナンス	Damper Reso.	Tone, Off, 1～4
ダンパーノイズ	Damper Noise	Tone, Off, 1～4
キーオンアクションノイズ	Key On Noise	Tone, Off, 1～4
キーオフアクションノイズ	Key Off Noise	Tone, Off, 1～4
エフェクト設定(DIR)	EFFECT	–
コーラスタイプ	Chorus Type	Tone, 1～12
ブリリアンス	Brilliance	−3～+3
鍵盤(DIR)	KEYBOARD	–
タッチレスポンス	Touch Response	Off, Light2, Light1, Normal, Heavy1, Heavy2
鍵盤音量	Keyboard Volume	0～127
パート音量(DIR)	PART VOLUME	–
Upper1パート	Upper1 Part	0～127
Upper2パート	Upper2 Part	0～127
Lowerパート	Lower Part	0～127
パートオクターブシフト(DIR)	PART OCT SHIFT	–
Upper1パート	Upper1 Part	−2, −1, 0, +1, +2
⋮	⋮	⋮

FUNCTIONモードに含まれるすべてのディレクトリとパラメーターの一覧は、弊社ウェブサイトの「取扱説明書」をご参照ください。

■ FUNCTIONパラメーターを変更するには

1. **15∨**を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。
   FUNCTIONモードに入り、トップメニューが表示されます。
   - FUNCTIONモードのトップメニューでは、1行目に“[FUNCTION]”、2行目にディレクトリ名が表示されます。ディレクトリ名は、すべて大文字で表示されます。

```
[FUNCTION]
<      SOUND      >
```

ディレクトリ名

2. 設定を変更したいパラメーターの名前を表示します。
   - 例えば“Chorus Type”というパラメーターを表示するには、“SOUND”（ディレクトリ）→ “EFFECT”（ディレクトリ）→ “Chorus Type”（パラメーター）の順に階層を下りていく必要があります。次のように操作します。

   (1) **10＜**、**11＞**を使って“SOUND”を表示し、**12ENTER**にタッチします。
   - “SOUND”ディレクトリ内に入ります。

   (2) **10＜**、**11＞**を使って“EFFECT”を表示し、**12ENTER**にタッチします。
   - “EFFECT”ディレクトリ内に入ります。

   (3) **10＜**、**11＞**を使って“Chorus Type”を表示します。
   - 現在のディレクトリから抜けて1つ上の階層に戻るには、**13EXIT**にタッチします。
3. パラメーター名を表示したら、**12ENTER**にタッチします。
   設定値の編集状態に入り、表示しているパラメーターの現在の設定値が、液晶画面の3行目に表示されます。

```
[FUNCTION]
  Chorus Type
−      Tone      +
```

4. **10**ー、**11**＋または**22**ノブ（**K1**）を使って、設定値を変更します。
5. 希望する設定値に変更したら、**13EXIT**にタッチして、設定値の編集状態から抜けます。
6. FUNCTIONモードから抜けるには、液晶画面から“[FUNCTION]”の表示が消えるまで、**13EXIT**を押さえ続けます。

USBメモリーを使用する

市販のUSBメモリーを使って、本機で下記のことができます。

USBメモリー上の曲データを再生
パソコンを使ってUSBメモリーに保存した一般の曲データ（MIDIファイル）を、本機で再生することができます。
- USBメモリーに曲データを保存する操作については、「一般の曲データをパソコンでUSBメモリーにコピーする」をご参照ください。
- 曲データの再生操作については、「曲を聴く（MIDIプレーヤー）」（3/4ページ）をご参照ください。

演奏をUSBメモリーに録音
本機による演奏をオーディオデータとしてUSBメモリーに記録できます。「オーディオレコーダーで演奏を録音する」（3/4ページ）をご参照ください。

各種データの保存と読み込み
本機に記録した各種のデータ（MIDIレコーダー曲やレジストレーションのセットアップなど）をUSBメモリーに保存したり、本機で保存したデータや本機と互換性のあるデータ（ユーザー曲など）を読み込んだりすることができます。詳しくは、弊社ウェブサイトの「取扱説明書」をご参照ください。

USBメモリーとUSB Type A端子の取り扱いのご注意

重要！
- **USBメモリーに付属している取扱説明書の注意事項をお守りください。**
- **以下のような場所での保管や使用は避けてください。USBメモリー上のデータが壊れる場合があります。**
  - **高温多湿、または腐食性のある場所**
  - **強い静電気や電気的ノイズの発生しやすい場所**
- **データを保存したり読み込んでいるときには、本機を操作したりUSBメモリーを取り外したりしないでください。USBメモリーのデータが壊れたり、USB Type A端子が故障したりする場合があります。**
- **長時間使用すると、取り外したUSBメモリーが温かくなっている場合がありますが、故障ではありません。**
- **USB Type A端子に、手やUSBメモリーから静電気が伝わると、本機が誤動作する場合があります。このような場合は、一度本機の電源を切ってから、再び電源を入れてください。**

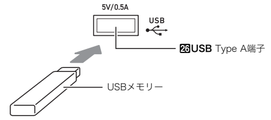
著作権について
個人で楽しむなどのほかは、音声／音楽フォーマットファイルを権利者に無断で複製することは著作権法や国際条約で固く禁じられています。また、これらのファイルを有償・無償に関わらず権利者に無断でネット上で記載したり、第三者に配布することも著作権法や国際条約で固く禁止されています。万一、本機が著作権法上の違法行為に使用された場合、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

対応USBメモリーについて

本機は、FAT32またはexFATでフォーマットされたUSBメモリーに対応しています。FAT32またはexFAT以外でフォーマットされたUSBメモリーは、Windowsのフォーマット機能で一度、ファイルシステムをFAT32またはexFATに指定してフォーマット（クイックフォーマットを除く）してください。

USBメモリーの着脱

取り付け
本機にUSBメモリーを装着するには、下図のように、USBメモリーを本機の**23USB** Type A端子へ差し込みます。



- 確実に奥まで差し込んでください。また、無理な挿入はしないでください。
- 本機がUSBメモリーを認識すると、液晶画面に“MOUNTING”と表示されます。表示が消えるまでは、何も操作せずにしばらくお待ちください。

取り外し
USBメモリーを本機から取り外すには、液晶画面に“MOUNTING”または “Wait”と表示されていない（データをやり取り中でない）ことを確認してから、USBメモリーを水平にしたまま抜いてください。

メモ
- USBメモリーが本機にマウントされると、ルートディレクトリに“MUSICDAT”という名前のフォルダが作成されます（USBメモリーに“MUSICDAT”フォルダがない場合）。本機とUSBメモリーの間でデータをやりとりする際は、このフォルダを使います。

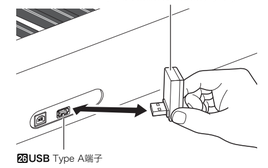
一般の曲データをパソコンでUSBメモリーにコピーする

USBメモリーの“MUSICDAT”フォルダに下記の形式のファイルを保存して、本機で再生することができます。
- 標準MIDIファイル（SMFフォーマット0/1）
- カシオMIDIファイル（CMF形式）

1. **USBメモリーをパソコンにつなぎます。**
2. **USBメモリーのルートディレクトリに、“MUSICDAT”という名前のフォルダを作成します。**
   - すでに“MUSICDAT”フォルダがある場合は、この手順は不要です。
3. **本機で再生したい曲データを、USBメモリー内のMUSICDATフォルダにコピーします。**
   - 曲データの再生操作については、「曲を聴く（MIDIプレーヤー）」（3/4ページ）をご参照ください。

付属のワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターを使う

ワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターを本機の**23USB** Type A端子に接続すると、次のことができます。
- Bluetooth接続したスマートデバイスの再生音を本機のスピーカーから鳴らす
- Bluetooth Low Energy接続でMIDI機能を使う
- スマートデバイス用アプリを使う



重要！
- **ワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターを取り外すときは、本機の電源を切ってください。**

■ 外部機器と接続する

弊社ウェブサイトにある「取扱説明書」の「ワイヤレスMIDI & AUDIOアダプター × オーディオ＆パソコン接続ガイド」をご参照ください。
https://support.casio.jp/emi/manual/PX-S3100/

■ スマートデバイスとリンクする（APP機能）

スマートデバイスと本機を接続すると、アプリで本機を操作（ピアノリモートコントローラー）したり、アプリのさまざまな機能を楽しんだりすることができます。
- 各種操作について詳しくは、アプリの説明書をご覧ください。

弊社ウェブサイトからスマートデバイス用アプリをダウンロードして、お使いのスマートデバイスにインストールしてください。
https://support.casio.jp/emi/manual/PX-S3100/

本機を工場出荷時の状態に戻す

下記の操作で、本機のデータや設定などシステムの内容をすべて初期化して、工場から出荷したときの状態に戻すことができます。

1. **15∨**を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。
2. **10＜**、**11＞**を使って“SYSTEM”を表示し、**12ENTER**にタッチします。
3. **10＜**、**11＞**を使って“Factory Reset”を表示し、**12ENTER**にタッチします。
   “Sure?”と表示されます。
4. 本機を工場出荷時の状態に戻すには**11**＋、中止するには**10**ーにタッチします。

製品仕様

型式： PX-S3100BK
鍵盤： 88鍵 / テュエット：音域変更可（−2～+2オクターブ）/ トランスポーズ：−12～0～+12半音 / オクターブシフト：−2～0～+2オクターブ
音源： 音色数：700 / レイヤー可 / スプリット可 / 同時発音数：最大192音 / タッチレスポンス機能（感度設定５種類、オフ）/ チューニング：415.5Hz～440.0Hz～465.9Hz（0.1Hz単位）/ 音律：平均律＋16種類
アコースティックシミュレーター： ハンマーレスポンス、キーオフレスポンス、ストリングレゾナンス、ダンパーレゾナンス、ダンパーノイズ、キーオンアクションノイズ、キーオフアクションノイズ
サウンドモード： ホールシミュレーター（4種）、リバーブ（8種）、サラウンド（2種）
エフェクト： コーラス（12種）、DSP（音色組み込み＋プリセット100種、編集可）、ブリリアンス（−3～0～3）
デモ曲： 6
曲再生機能（SONGモード）：
  MIDIモード時： ダウンロード曲（ユーザー曲）再生：10曲まで内蔵フラッシュメモリーに保存可（1曲あたり最大約320KB、表記容量は1KB=1024バイト、1MB=1024^{2}バイト 換算）/ MIDIレコーダー録音曲再生 / USBメモリー上の曲データ（SMF）再生 / パートのミュート：L、R、L+R
  オーディオモード時： オーディオレコーダー録音曲再生 / センターキャンセル
  曲の音量： 調節可（MIDIモード、オーディオモード共通）
MIDIレコーダー： MIDIデータとしてリアルタイム録音、再生 / 曲数：5曲 / 録音トラック数：3トラック / 容量：1曲あたり約30,000音符（3トラック合計）/ 録音内容の保持：内蔵フラッシュメモリー
オーディオレコーダー： オーディオデータとしてリアルタイム録音、再生 / 曲数：99曲（ファイル）/ ファイル形式：WAV形式（リニアPCM、16bit、44.1kHz、ステレオ）/ 最大録音時間：1ファイルあたり約25分 / 録音内容の保持：USBメモリー
自動伴奏機能： リズム数：200 / ワンタッチプリセット：200種類 / オートハーモナイズ：12種類 / 自動伴奏の音量：調節可
ミュージックプリセット： 310種類
アルペジエーター： 100種類
メトロノーム： リズムとして組み込み / 拍子ベル音：オフ、1～9（拍子）/ テンポ範囲：20～255 / メトロノームの音量：調節可（自動伴奏の音量と共通）
レジストレーション機能： 最大96セット（4セット×24バンク）
ペダル： 付属ペダル（SP-3）使用時：サステイン（オフ、オン）、ソステヌート（オフ、オン）、ソフト（オフ、オン）、アルペジオホールド（オフ、オン）、演奏／停止、フィルインの間で切り替え可 / ペダルユニット（SP-34, 別売品）使用時：サステイン（オフ、ハーフ、オン）、ソステヌート（オフ、オン）、ソフト（オフ、オン）/ エクスプレッションペダル対応
その他の機能： オートレジューム、操作のロック
MIDI： 16chマルチティンバー受信
ピッチベンドホイール： ピッチベンドレンジ：0～24半音
ノブ： 2個 / ノブセット（ノブ機能のプリセット設定割り当てセット）：14種類
入出力端子： PHONES端子：ステレオミニジャック×2 / 電源端子：DC12V / AUDIO IN端子：ステレオミニジャック（入力インピーダンス 10kΩ、入力感度 200mV）/ LINE OUT R、L/MONO端子：標準ジャック×2（出力インピーダンス 600Ω、出力電圧 1.3V（RMS）MAX）/ USB端子：Type A、Type B / DAMPER PEDAL端子：標準ジャック / EXPRESSION/ASSIGNABLE端子：標準ジャック / PEDAL UNIT端子：専用形状
音響： アンプ出力：8W＋8W / スピーカー：16cm×8cm（楕円形）×2
電源： 2電源方式
  電池：単3形アルカリ乾電池6本使用
  連続動作時間：約2時間
  アルカリ電池使用、内蔵デモ曲再生時
  ご使用の電池の種類や演奏方法によっては連続動作時間が短くなることがあります。
  家庭用AC100V電源：ACアダプターAD-A12150LW使用
  オートパワーオフ機能：約4時間後（ACアダプター使用時）、約6分後（電池使用時）、キャンセル可能
消費電力： 12V ⎓ 15W
サイズ： 幅132.2×奥行23.2×高さ10.2cm
質量： 約11.4kg（乾電池含まず）

- 改良のため、仕様およびデザインの一部を、予告なく変更することがあります。

ご使用上の注意

別紙の「安全上のご注意」と併せてお読みください。

■ 設置上のご注意

本機を次のような場所に設置しないでください。
- 直射日光のあたる場所、温度の高い場所。
- 極端に温度の低い場所。
- ラジオや、テレビ、ビデオ、チューナーに近い場所（これらを近くに置いた場合、本機には特に障害はありませんが、近くに置いたラジオやテレビの側に雑音や映像の乱れが起こることがあります）。

カビを予防するために、風通しに配慮して設置場所の温度・湿度を保ってください。
- 推奨温度範囲：15 ～ 25 ℃
- 推奨湿度範囲：40 ～ 60%RH

■ 本機のお手入れについて

- 乾いた柔らかい布で拭いてください。ティッシュは傷がつきやすいのでご使用にならないでください。
- 汚れが気になる時は、薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸し固く絞ってから軽く拭き取り、乾いた柔らかい布で軽く製品表面を拭いてください。
- 変色、変質、塗装はがれ、ひび割れ等の恐れがありますので、ベンジン、有機溶剤、アルコール等が含まれるクリーナー剤、塩素系消毒液、アルコールタイプの除菌シート等はご使用にならないでください。

■ 除菌・消毒方法について

- ノンアルコールの除菌シートで2～3回拭き取りをした後、乾いた柔らかい布で軽く拭いて仕上げてください。
- 乾拭きをしないで放置すると痕が残りますので、ご注意ください。
- 複数の方が製品をご利用する場合は、ご利用前後に手を消毒していただくことをおすすめします。

■ 付属品・別売品

付属品や別売品は、本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

■ ウエルドライン

外観にスジのように見える箇所がありますが、これは、樹脂成形上の“ウエルドライン”と呼ばれるものであり、ヒビやキズではありません。ご使用にはまったく支障ありません。

■ 音のエチケット

楽しい音楽も時と場合によっては気になるものです。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。周囲に迷惑のかからない音量でお楽しみください。窓を閉めたり、ヘッドホンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

保証・アフターサービスについて

保証書はよくお読みください

保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間は保証書に記載されています

修理を依頼されるときは

まず、もう一度、取扱説明書に従って正しく操作していただき、直らないときには次の処置をしてください。

● 保証期間中は
保証書の規定に従って取扱説明書等に記載の「修理お申込み先」またはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。
- 保証書に「持込修理」と記載されているものは、製品に保証書を添えてご持参またはご送付ください。
- 保証書に「出張修理」と記載されているものは、取扱説明書等に記載の「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店までご連絡ください。

● 保証期間が過ぎているときは
取扱説明書等に記載の「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店までご連絡ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

当商品は「出張修理」「持込修理」のいずれも受け付けております。修理をお急ぎの場合には、事前に「修理に関するお問合せ先」にご相談ください。お客様のご希望に沿った修理方法をご案内させていただきます。

あらかじめご了承いただきたいこと

● 「修理のとき一部代替部品を使わせていただくこと」や「修理が困難な場合には、修理せず同等品と交換させていただくこと」があります。
また、特別注文された製品の修理では、ケースなどをカシオ純正部品と交換させていただくことがあります。

● 修理のとき、交換した部品を再生、再利用する場合があります。修理受付時に特段のお申し出がない限り、交換した部品は弊社にて引き取らせていただきます。

● 録音機能などのデータ記憶機能付きのモデルでは、修理のとき、故障原因の解析のため、データを確認させていただくことがあります。
また、お客様のデータが消える場合が有りますので、必要なデータは修理に出す前にお客様にてバックアップをお願いいたします。

● 日本国内向けの製品は海外での修理受付ができません。修理品は日本まで移動の上、日本国内の「修理お申込み先」にご依頼ください。

アフターサービスなどについておわかりにならないときは

取扱説明書等に記載の「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

■JIS C 61000-3-2適合品
本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

Manufacturer:
CASIO COMPUTER CO., LTD.
6-2, Hon-machi 1-chome, Shibuya-ku, Tokyo 151-8543, Japan
Responsible within the European Union:
Casio Europe GmbH
Casio-Platz 1, 22848 Norderstedt, Germany
www.casio-europe.com

Manufacturer:
CASIO COMPUTER CO., LTD.
6-2, Hon-machi 1-chome, Shibuya-ku, Tokyo 151-8543, Japan
Responsible within the United Kingdom:
Casio Electronics Co.Ltd.
Harp View,12 Priestley Way, London, NW2 7JD, U.K.
www.casio.co.uk

本書に記載されている社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標および商標です。

- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不明な点や誤りなど、お気付きの点がございましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。
- 本書および本機の使用により生じた損失、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。

定格表示は製品底面ラベルに記載されています。

カシオ計算機株式会社
〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2

MA2105-A Printed in China
© 2021 CASIO COMPUTER CO., LTD.